

44宇宙委第32号
昭和44年3月24日

殿

宇宙開発委員会委員長 木内四郎

第9回宇宙開発委員会定例会議の開催について

標記会議を下記により開催しますので、ご出席下さい。

記

1. 日 時 昭和44年3月26日(水)
午後2時~4時
2. 場 所 科学技術庁 第2会議室
3. 報告事項 インテルサット全権会議の報告

44 宇宙委 第 33 号
昭和 44 年 3 月 26 日

殿

宇宙開発委員会委員長 木内 四郎

第 9 回宇宙開発委員会定例会議の開催延期
について

44 宇宙委 第 32 号をもつて通知した第 9 回宇宙開発委員会
については、その期日を延期し、下記のとおり開催しますので、
よろしくご了解のうえ、ご出席下さい。

記

1. 日 時 昭和 44 年 4 月 2 日(水)
午後 2 時～4 時
2. 場 所 科学技術庁 第 2 会議室
3. 議 題 インテルサット全権会議の報告

第9回宇宙開発委員会定例会議事次第

1. 第8回宇宙開発委員会定例会議事要旨の確認
2. インテルサット全権会議の報告

● 配布資料

委9-1 第8回宇宙開発委員会定例会議事要旨

第8回宇宙開発委員会定例会議議事要旨 委9-1

1. 日時 昭和44年3月19日(水) 午後2時~4時
2. 場所 科学技術庁 第2会議室
3. 議題 (1) 宇宙開発計画の今後の審議の進め方について
(2) その他

4. 出席者

委員長代理 山 泉 昌 夫
委員 関 義 長
委員 大 野 勝 三
委員 吉 識 雅 夫

関係行政機関職員

科学技術事務次官 藤 波 恒 雄

大蔵省主計局主計官(代理:主計局科学技術係
杉 田 昌 久)

文部省大学学術局審議官(代理:大学学術局学術課
鈴 木 喬)

通商産業大臣官房審議官(代理:重工業局航空機武器課
松 本 久 男)

通商産業省工業技術院総務部長(代理:総務部総務課
若 林 俊 一 郎)

運輸省大臣官房参事官(代理:官房政策課技術調査官
清 水 正 義)

気象庁総務部長(代理:観測部高層課
中 村 繁)

海上保安庁総務部長(代理:水路部編暦課
山 崎 昭)

郵政省電波監理局無線通信部長(代理:電波監理局技術
調査課 中津川 英 雄)

建設大臣官房技術参事官(代理:技術参事官室
上 村 克 郎)

事務局

科学技術庁研究調整局宇宙企画課長
山 野 正 登 他

5. 配布資料

委8-1 第7回宇宙開発委員会定例会議議事要旨

委8-2 大型人工衛星打上げロケット開発上の問題点につ
いて

委8-3 N以後のロケット開発について

委8-4 今後10年程度の間において開発打上げを予想さ
れる衛星

委8-5 今後5年間に必要な宇宙開発関係経費

委8-6 10年後のビジョン設定に当つて検討すべき問題
点

6. 議事要旨

(1) 前回議事要旨の確認

「第7回宇宙開発委員会定例会議議事要旨」が確認された。

(2) 宇宙開発計画の今後の審議の進め方について

(イ) 事務局から配布資料の説明があつたのち、関 委員およ
び吉識 委員からそれぞれ人工衛星開発計画部会およびロ
ケット開発計画部会の審議状況について、次のとおり報告
があつた。

○ 人工衛星開発計画部会では、48年度の実験用静止通
信衛星打上げ以後に打上げが予想される衛星について各

専門委員から資料を提出していただいてこれについて検討を行なっている。現在、提案されている最も大きな衛星は、重量約500kg~750kgの静止衛星である。

- ロケット開発計画部会では、現在Nロケット以降のロケット開発を中心^{（中心）}に審議を行なっている。今後、衛星が大型になるにしたがつてロケットも大型になることが予想されるが、その場合でもNロケットをクラスターにすれば相当な重量の衛星を静止軌道に打ち上げることも可能であるとの意見が出されている。

今後は、計画総合部会および人工衛星開発計画部会の意見を聞いたうえで、検討を進めたい。

- (ロ) 宇宙開発計画の今後の進め方について次のような論議があった。

- ロケット開発計画部会において、どのようなロケットを開発すべきかを決定するには経費の規模、年限、人材等について計画総合部会の指示がなければ非常にむずかしい。これらについて経済効果の面から結論が出れば一番よいことだと思うが、これは非常にむずかしい。

- 電離層観測衛星、実験用静止通信衛星、その他気象、航行、測地等の衛星は、重量約100kg~200kg程度であるので、このためにはQロケットおよびNロケットを開発し、さらに将来の通信衛星の重量は約750kg程度になると考えられるので、これを打ち上げるためのロケットの開発を、目標としたらよいのではないか。

—現在の技術では直接放送衛星を約750kgにすることは

むずかしいが、UHF等の機器を使えば可能となるのではないか。

- 重量の大きな衛星を早期に打ち上げるためには、ロケットについて、クラスターの研究が必要である。
- 将来は、液体ロケットだけにするのか、固体ロケットだけにするのか、液体ロケット、固体ロケットの両方の開発を行なうのかについて時間をかけて、研究し検討する必要がある。
- 将来、通信放送衛星が必要になるだろうが、放送衛星についてはNHK、通信衛星についてはNTTの意見をそれぞれ聞く必要がある。これらについては、現在、約500kg~750kg程度の衛星を考えているが、これは放送衛星としても、通信衛星としても使え、大容量でもあるので経済的であると思う。（事務局から第4回人工衛星開発計画部会配布資料「通信衛星開発ビジョン」に基づき、NHKとNTTの通信放送衛星についての意見を説明）
- どのような衛星を何個、いつ打ち上げるかについて十分審議して取捨選択する必要がある。
- 大型ロケットの輸送のための道路、港湾等の整備を進めるべきであろう。
- 種子島宇宙センターを将来とも使用する方針で臨むべきである。